



2023 6/8-11

第5回

グローバル・グリーンズ世界大会

in 韓国仁川

報告集



世界の希望、グローバル・グリーンズ世界大会が開催されました

世界約 100 カ国の緑の党をネットワークする「グローバル・グリーンズ（以下 GG）」は、6 月 8 日から 11 日の 4 日間「第 5 回世界大会 in 韓国」を仁川で開催しました。2021 年開催の予定でしたが、コロナ禍のため 2017 年のリバプール大会以来 6 年ぶりとなりました。

2018 年 IPCC 「1.5℃ 報告書」の衝撃を踏まえた待ったなしの気候危機対策、コロナ禍で問われた経済のあり方、ロシアのウクライナ侵略で平和をどう再構築するかなどが問われる状況の中での開催でした。世界 84 カ国から約 700 名が参加、日本からは現地に 36 人、オンラインで 21 人が参加し、活発な議論と交流を行い情報の共有と連帯を深めました。

緑の党グリーンズジャパン（以下 GJ）は、福島での原発事故後の現状を伝え、汚染水放出に反対するセッションを企画しました。約 50 人が参加し、原発はエネルギー不足の解決策ではないこと、汚染水放出に反対する声がたくさんあることが再確認できました。

また、動物が行き来できる生物回廊をつくる運動を世界中で推進することなどを提案しました。

大会は、エコサイド（生態学的虐殺）、気候難民、AI、生物多様性、動物の権利、女性・若者・子ども・先住民・LGBTQ の権利などに関する多様なテーマでのセッションなどを経て、18 の決議を採択し、GG 憲章を改正しました。

決議は、「エコサイドが国際犯罪と見なされ、国際条約で監視される法的枠組みの構築に取り組む」決議、「ウガンダで導入された LGBTQIA+ を犯罪化、投獄及び死刑判決の脅威を非難し、ウガンダ政府に対し、この決定を

直ちに見直すよう求める」決議、「ロシアのウクライナへの侵略とエコサイドを非難しウクライナに連帯する」緊急決議など。GJ などが提案した汚染水の放出を含む「太平洋における核廃棄物とその処分の継続的な脅威に懸念を表明する」決議も採択されました。

GG 憲章は、ジェンダー平等の観点から「男女」という表記を「すべての人」へと改正、気候危機に関しては「新しいミレニアムが変革を開始する・・・」という認識では遅すぎるとのヤング・グリーンズの提案でこの文言を削除しました。

大会最終日には、改めて「グローバルな連帯と団結が求められている」ことを確認し、大成功のもと閉幕。次回は 5 年後の 2028 年、アメリカ大陸で開催されます。2030 年までに温室効果ガスの半減が求められる直前の大会であり、その実現にめどが立っているか否かが問われる歴史的な大会となります。

GJ は、今大会で学んだことを活かし、世界の仲間と連帯して、ジェンダー平等がより進み、平和の再構築への道筋が強化され、気候危機の解決の希望が見いだせる時代を引き続きめざします。

日本派遣団共同団長 尾形慶子、高橋裕也



尾形慶子



高橋裕也

韓国宣言全文を読む→



～韓国宣言（日本語訳、抜粋版）～

2023年6月

気候危機と不平等が容赦なく進行するなか、生命と正義の未来は深刻な危機に瀕しています。人類は岐路に立たされています。

韓国で再会した私たちグローバル・グリーンズは、未来への安全な道を築くために共に努力することを改めて表明します。それは、すべての生命が尊重され、すべての人がなりたい自分になる権利を持ち、自然とのバランスのなかで、すべての人間にふさわしい生活を送ることができる未来です。

グローバル・グリーンズは、アフリカ、南北アメリカ、アジア太平洋、ヨーロッパの各地域に設立された4つの独立した緑の政党と運動の連合体です。私たちは、環境正義、気候正義、社会正義のもとに集まる多様性ある連合体で

す。私たちこそ、参加型民主主義にのっとり、人類が直面する複合危機に取り組むために必要な変化をもたらすことができます。（中略）

したがって、私たちグローバル・グリーンズは、持続可能で公正な世界に向けて団結する決意をここに確認します。共有するビジョンと共通の目的を持って、私たちは、気候危機、生物多様性の保全、社会正義、平和および民主主義に関する緊急行動を主張します。私たちが遺すことのできる最高のものを、若者たちや未来の世代が受け継ぐことができるよう、私たちは一丸となってあらゆる権利を取り戻さねばなりません。それが私たちの責任です。

第5回グローバル・グリーンズ世界大会 in 韓国仁川 概要

- ・2023年6月8日（木）～11日（日）に韓国の仁川市松島コンベンシアにて開催。
- ・84カ国から700人以上の緑の黨員と活動家、緑の政治家などが参加。
- ・事前決議 39本、特別決議 6本を修正を加えすべて採択。
- ・韓国宣言を発表。 ※上記参照
- ・日本派遣団は36人（うち若者助成12人）。オンライン21人+直接申し込み者。
- ・5年後（2028年）のGGG大会はアメリカ州緑の党連盟開催（場所は未定）。
- ・グローバル・ヤング・グリーンズ（GYG）総会も開催。



会場外観



会場ロビー。様々な交流がありました



会場ロビーの写真撮りスポット

躍進する世界の緑の党（第5回韓国仁川大会までの軌跡）

運営委員長：八木聡

オーストラリア・タスマニア地方の政治グループが最初の緑の党とされています。ヨーロッパではイギリス緑の党がもっとも早い党の設立でした。そして世界に衝撃を与えたのは、ドイツ緑の党（正式には同盟90／緑の党）の国会議員誕生です。党を名乗らない、既成の政党が取り組まない政治課題を打ち出す、議員のローテーション制度など市民色の強い政党でした。

第1回グローバル・グリーンズ大会 in キャンベラ (2001)

世界に広がった「緑の党」が国を超えて結びつく動きが出てきました。4月14～16日、70カ国から800人以上の参加者が集まり、決議文および「グローバル・グリーンズ（以下GG）憲章」が採択されました。「GG憲章」は、京都議定書後の気候変動対策、LGBTの権利、WTO=GATT体制・世銀への評価など、多くの修正案をもとに議論し、まとめられたものです。

【日本の動き】 緑の党の前身団体の一つである「虹と緑の500人リスト運動（以下、虹と緑）」を中心に30名以上が参加。GG憲章の議論にも積極的に加わり、日本などの提案により国連による武力行使に参加しない権利に言及する修正が加えられました。参加者の交流でその後の「緑の党」につながる交流ができました。



第1回キャンベラ

アジア太平洋緑の党ネットワーク (APGN) が京都で発足 (2005)

GGは4つの域ブロックで構成（図参照）されることが決まっていました。1年あまりの準備を経て、アジア太平洋の緑の党や運動団体が集まり、2005年2月京都で、APGNが発足しました。23カ国27団体から約100名、国内から約300名の参加を得ました。その後、2010年4月に台湾で、2015年6月ニュージーランド(NZ)で各国から約100人が参加して開催されました。NZ大会からはAPGF（アジア太平洋緑の党連盟）となりました。

【日本の動き】 「虹と緑」が声がけし、生活クラブ生協を母体とした「ネットワーク運動」なども協力し、実行委員会の実務を担いました。環境・人権・平和をテーマに海外からの参加者と日本の報告者が濃密な議論を行ないました。会議後には参議院議員選挙に挑戦した「みどりの会議」のメンバーが集まり「みどりのテーブル」が発足しました。2010年台湾大会には「虹と緑」と「みどりのテーブル」が合流して発足した「みどりの未来」から20名の参加。原発の危険性を世界に訴え、映画監督の鎌仲ひとみさんと現地で記者会見や映画上映を行ないました。2015年NZ大会には「みどりの未来」から発展的に設立された「緑の党グリーンズジャパン」として9名が参加しました。

グローバル・グリーンズ

アフリカ
緑の党連盟
(AGF)

アメリカ州
緑の党連盟
(FPVA)

アジア太平洋
緑の党連盟
(APGF)
～日本～

ヨーロッパ
緑の党
(EGP)

第2回 GG 大会 in サンパウロ (2008)

5月1日～5日、約90カ国から約800人がブラジル・サンパウロに集まりました。21世紀に緑の政治をめざす者たちが積極的に実行すべき21の活動目標と3つの決議文を採択しました。

【日本の動き】 「みどりのテーブル」と「虹と緑」で合同派遣団を結成して17名が参加。新潟県柏崎刈羽原発事故の直後ということもあり、「地震と原発」のテーマを展示などでアピール。決議案としても「原子力発電は気候変動の解決策になり得ない」と日本と台湾とオーストラリアが共同で提案し、可決されました。

第3回 GG 大会 in ダカール (2012)

3月29日～4月1日、西アフリカのセネガルの首都ダカールで開催され、76カ国約600人が参加しました。11年ぶりにGG憲章の見直しが行われました。また「気候変動とエネルギー（脱原発）」「世界の漁業、海洋生態系に関する決議」「グリーンエコノミー」「Rio+20サミットに向けて」といったテーマで議論され、決議案に結びつけました。

【日本の動き】 「みどりの未来」から4名が参加。

第4回 GG 大会 in リバプール (2017)

3月30日～4月2日、イギリスのリバプールで開催されました。環境危機、武力紛争の増大、排他的ポピュリストによる虚構の解決策に対して、多様性の尊重、平和、真の民主主義をめざして世界の緑の党が団結して取り組むことを決意する「リバプール宣言」を採択。

【日本の動き】 共同代表2名（長谷川羽衣子、長谷川平和）を含む20人の派遣団を送り、日本の緑の党が主催して「核と平和」そして「報道の自由」についてのセッションが行われました。

そして第5回韓国仁川大会へ。



第2回サンパウロ



第3回ダカール



第4回リバプール

開会式

グローバル コミュニティを育成しよう！

開会式の動画→



開会式では10人の関係者がスピーチを行いました。GG共同代表のボブ・ヘイルさんの挨拶を紹介します。



ボブ・ヘイルさん
(GG共同代表、
豪州緑の党)

リバプール大会から6年経ちました。政治の世界では6年は非常に長い時間です。環境や社会正義においてもです。

情熱的で献身的な皆さんに集まっていただき、未来への希望が湧いてきます。

GG大会はとても稀な機会です。それを最大限に活用して、仲間に出会い、つながり、誰にでも声をかけて会話を始めてください。皆さんの味方や友人になってくれるでしょうし、同じ目標に向かっていることがわかると思います。

今日、私たちがここに集まったのは、単に植林をしたり、プラスチックごみを減らす方法を検討するだけではありません。私たちが直面している環境問題の緊急性を認識し、それに対処するための行動を起こす、グローバルコミュニティを育成するためなのです。

今こそインスピレーションを受け、つながり、強力な同盟を結びましょう。そして私たちのこれまでの成功を祝い、グローバルコミュニティがおこなってきた素晴らしい仕事を認め合しましょう。

あなたは活動家かも知れません、政治家かも知れません、研究者かも知れません。それとも関心のある市民でしょうか。どんな肩書であっても、いまここにいることが重要なのです。あ

なたは一人ではありません。私たちは大きなビジョンを持っています。目標も同じです。

その中でGGの役割とはなんでしょうか。私たちはどうしたらあなた達を成功に導けるのでしょうか。より良い方法は何か。追加的な活動は何か。特に今後2・3年に向けた皆さんからのアイデアを必要とします。

このGG大会を記憶に残るポジティブなイベントにしましょう。



日本の緑の党が加盟している「アジア太平洋緑の党連盟 (APGF)」の集会では加盟団体が紹介されました。写真はヤンググリーンズジャパン共同代表寺前南さん。

日本派遣団の成果①

原発セッション

「汚染水を海に流すな」
緊急アクションの報告
詳細ページ→



脱原発を唱えるのは、 グリーンズ・ジャパンの使命！

世界の脱原発の動きは、気候危機対策や戦争対応におされて鈍くなっています。日本の緑の党は、原発事故の惨事を経験した被爆国として、脱原発を大きく訴えなければならないと考えました。特に、2023年8月に福島から汚染水が海洋放出されようとしていたので、世界に向けてこの事態を強調しました。

分科会「福島と海洋の核廃棄物 - 核は答えにならない -」

日本・オーストラリア・韓国・ベルギーの緑の党が主催して、汚染水問題に力点をおいて、分科会「福島と海洋の核廃棄物 - 核は答えにならない -」を行いました。

日本から共同代表の尾形慶子が、プロジェクト「311を忘れない」の小笠原学さんに代わってプレゼンしました。福島原発事故の被災者への日本政府の対応は、チェルノブイリのケースと比べても非常に不十分。汚染水はALPSにより処理されても安全ではなく、海洋放出ではない対策（大型タンク貯蔵、固化貯蔵など）が検討されていないことから、国内外から激しく批判されていると話しました。

ドミニク・カナックさん（豪州）は、自国のウラン採掘が先住民の故郷を放射能汚染したことを話しました。オ・ヒョノウさん（韓国）は、韓国の世論の8割が汚染水の海洋放出に反対していることを述べ、今後、放射性廃棄物は海に棄てればいいという流れを作ってしまうと懸念を示しました。国会議員であるサミュエル・コ

ゴラティさん（ベルギー）は、近年ヨーロッパで原発回帰の気運が強まっていることに警鐘を鳴らしました。ミシェル・シーターさん（豪州）は、太平洋における核実験の歴史を話し、核廃棄物についても、核実験と同じく国際条約によって制限を強化する必要性を訴えました。

大会で決議が採択。 国際的な関心の高まりと全国アクション

大会最終日、決議「太平洋における核廃棄物の脅威」が採択され、処理汚染水の放出に抗議する声が世界に広まりました。韓国緑の党とは、共同声明を発表しただけでなく、日本から共同代表の尾形慶子がソウル市にて、共に在ソウル日本大使に抗議文を申し入れました。さらに、オーストラリア、アメリカ、キプロス、エジプト、チュニジア、アルジェリア、モンゴル、イラク、インドの緑の党が、それぞれの国の日本大使に抗議を表明しました。

日本では、「これ以上海を汚すな！市民会議」などの主催する「海の日アクション2023」に連帯して、全国で街宣活動や管轄省庁に申し入れを行いました。

分科会「福島と海洋の核廃棄物
- 核は答えにならない -」動画→



全国で処理汚染水放出反対のアクションを実施

日本派遣団の成果②

プレ企画

オーガニック給食の視察に参加して

GG大会の前日、緑の党企画の視察に参加しました。最初に韓国北部の京畿道（きょんぎどう、人口約1350万）エコ農産流通センターに到着後、社員食堂でオーガニックの昼食をいただき、トマトなど野菜が美味しかったです。

その後、関係者からお話を聞きました。2002年から始まった学校給食運動は①韓国産の安全な農産物を使う②学校の民間委託から直営に戻す③給食は普遍的福祉であり、無償化を要求しました。その時のスローガンは、「子供には健康を、農民には希望を」。市民運動の結果現在オーガニック給食は小中学校の70%、直営98%、無償化しました。

流通センターは、広い倉庫で毎日午後には農産物が到着し、学校ごと自治体ごとに分類し、夜中に各自治体に大型トラックで配送します。

京畿道で満足度1位の小学校の調理室を見学し、主に安全管理についてお聞きしました。実りの多い視察でした。

地域代表協議会議長：伊形順子

韓国・北朝鮮国境のDMZ（非武装地帯）ツアーに参加して

ソウルを朝7時半に出発したバスはほぼ満員で、世界各国から参加していた。イムジン川（臨津江）手前の臨津閣はまだDMZに入っていないのでテーマパーク感覚で観光客がたくさん来ている。ぼくが興味深かったのは朝鮮戦争時に銃弾を浴びたSLがそのまま保存されていたことだ。

DMZ内のハイライトは第3トンネル。北か

京畿道エコ農産流通センターにて



ら掘り始められたトンネルが発見され、その先端部まで350mのスロープで下りていき、そこから20mあまり、狭いトンネルを歩いて行ける。その少し先はもう軍事境界線なのだ。

展望室にも行ったが、モヤがかかっているあまり見えなかった。天気がよければ北の宣伝村も監視台も望遠鏡で見ることができそうな。ともあれ他の場所ではできない貴重な体験だった。

兵庫県：掘蓮慈

日本自主企画「太陽の蓋」上映会開催

8日、日本の自主企画として福島原発事故を題材とした映画「太陽の蓋」上映会を行いました。参加者は30～40人で、会場は満員になりました。映画は、政府や東電の対応などをドキュメンタリータッチで再現したもので、よくできています。

プロデューサーの橘さんから、日本での原発の再稼働（60年超の運転）、福島汚染水の海洋放出、メディアの問題などについてお話しがありました。参加者は原発汚染水の問題は懸念があり関心が高いよう。福島原発事故の影響の一端を、世界の緑の党の皆さんに見ていただいたのは、良かったと思います。



兵庫県議：丸尾まさ

プロデューサーの橘さんが参加し、熱気のある上映会になりました

日本派遣団の成果③

ワールド・カフェ

生物回廊～

国境をまたいだ生物回廊をつくる決議を
日本から提案、決議

生物回廊とは基本的に、自然保護区間をつなぐ野生生物の移動経路を確保するために指定される生物多様性保護区域を指す。これまで人類は、地球上を「人類が排他的支配権を握る区域」と「野生生物や自然の保護を優先させる区域」の2種類に区分してきた。だが、気候変動が気候危機と名前を変え、生物種の大絶滅が進行している21世紀において、特に生物多様性の保護のため、「第3の区分」として「OECM」（その他の効果的な地域をベースとする手段）という区域創設の必要性が世界中で議論され、2022年12月には自然保護区とOECMをあわせた領域が各国領土・領域の30%を超えるよう国際的取り決めがなされた。

GGではそれを実効的なものにすべく、2030年までに「国境を超えた（野生動物移動の）接続性」を担保する形でそれを達成するよう日本から提案し、決議に盛り込まれた。国家単位の利害を超えて国境をまたいだ接続性を担保する生物回廊建設は、国際的政治組織だからこそ現実的なものとなり得る。また人為的国境線より生物種の分布範囲区域を重視することで、国家間の利害を一致させ、国際的な平和機運の醸成にも役立つ。これぞ統合的な「緑の理念」の具現化といえよう。



国際部：足立力也



生物回廊では、野生動物や植生などがより自然に近い状態で混じり合う。ワールドカフェを訪れてくれた各国の人たちにこの点を説明したが、言葉の意味だけでなく、「共存」という概念まで踏み込んで知ってもらうべきであった。

チームの若いメンバーが準備したヘナでの動物ペインティングは好評であった。国を象徴する花や動物、絶滅が心配されている動物などをあげてもらい、腕にペイントし、お互いが握手すると国と動物同士がつながり「生物回廊」となる。台湾のヤマネコや、エジプトのイルカ、ライオンなど、開発や乱獲によって棲む所を追われて、絶滅に追いやられている。

静岡県：和高美樹

福島汚染水

テーブルを囲んで個々の問題を意見交換するワールドカフェでは、韓国・オーストラリア・ニュージーランドの参加者と、核廃棄物の陸上保管は実際簡単ではないこと、韓国では自然エネルギーは8%のみ、まだまだシフトが進んでいないこと、韓国南西部の原発24基は稼働している現実などが話されました。オーストラリアは非核宣言をし、将来的にグリーンな水素で鉄鋼業を支えることをめざすなど希望も出されました。

共同団長：尾形慶子

GG 世界大会では「エコサイド」が最も注目を集める！

GG は、生態系や環境を破壊する行為を「平和に対する罪」として定めようとする「ストップ・エコサイド・インターナショナル」キャンペーンを正式に支持した。現在、国際法で「平和に関する罪」として定められている①大量虐殺②人道に対する罪③戦争犯罪④侵略犯罪と並び、第5の犯罪として、エコサイドを定めようとしている。すなわち、生態系や環境を破壊する行為を国際刑事裁判所で処罰される対象にすることである。

<参加者から>

「エコサイド」とは、「エコ」と「ジェノサイド(大量虐殺)」を組み合わせた「深刻で、広範にわたり、長期的な環境破壊に対して国際的な犯罪として認定して処罰する」という新しい法的枠組みのこと。

セッションでは、2017年、「Stop Ecocide International」をポリー氏と設立した共同創設者、ジョジョ・メサ氏をはじめ、韓国、ベネズエラ、スペインの活動家、EU 議会議員、ベルギー国会議員による発表がおこなわれ、ラオスの灌漑ダムの決壊、ウクライナ戦争によるダム決壊、アマゾンの自然破壊の事例が紹介された。ベルギーやEU 議会でのエコサイドの決議などの情勢が示された。環境破壊への歯止めを目的とし、キャンペーンは欧州を中心に世界へ波及しはじめている。「エコサイド」が国際的な犯罪となれば、企業のトップや国家の関係者個人が裁かれ、責任を負うことになり「環境破壊の抑止力」になると考え得る。日本国内へも「エコサイド」を広めたい。

山形県鶴岡市議：草島進一



脱成長と緑の政治 6/9

私が参加した分科会「脱成長と緑の政治」では韓国、ルワンダ、フランス、セルビアからの4名の講演者がそれぞれの国の問題を含めて「脱成長」について話しました。彼らが話したことは「緑」に関わる人なら既に理解できていることだと思いましたが、いかに多くの人たちに「脱成長」を伝え、理解してもらえるのかという大きな問題の答えは聞くことができませんでした。私たちが理解できる「経済成長至上主義」「乱開発」「貧富の差」「北の成長のために南から資源の収奪」「若者の貧困と年金生活者」「異常気象(洪水、森林火災)」「水、空気は共有している」「必要な物だけを得る」「低賃金労働」「資本主義で脱成長はできない」などを毎日の生活に追われ、政治に関心がなく、「政治は関係ない、政治はわからない」というような人にどう話し、説明すればいいのか、私には答えがありません。「脱成長主義」とは「脱資本主義」「市民革命」「共産主義」「社会主義」のどれでしょうか。他に答えはあるでしょうか。ないでしょうか。

大阪府：山崎憲成





地方議員 - 都市における多様性 6/9

都市における多様性をどのように高めていくかについて、各地の取り組みをまとめたビデオ(カナダ・ニュージーランド・ドイツ・イギリス)を観てから、各地(韓国・イギリス・メキシコ)からの報告があった。

韓国ソウル(韓国緑の党共同代表ユリキム)

ソウル市では、2008年から、CBI(City Biodiversity Index)を使って都市の多様性をチェックし、官民が連携して緑地化に取り組んでいる。2015年に開催された「Bio Blitz Seoul」によって、より多くの人に都市における樹木の重要性が広まった。都市における緑地化は、近所の小さな声から始まると思う。

イギリス(パブリックカルチャアソシエーションCEO ジョン・パーカー)

「木は自然のエアコン」である。都市の中の樹木の数を有益性を示す金額で表すことで、樹木の重要性を可視化することが有益と考える。

メキシコ(ダベン・チャベスヤンググリーンズ)メキシコシティでは、先住民が行っていたように、2000万都市の中で有機農業を行うことで、緑地化に貢献している。都市において農業が復活したことで、農地に住む生物が生息し始め、多様性が確保された。

以上の報告があり、それぞれの地域で取り組むことの重要性を確認して終了した。

運営委員：久保あつこ

地方議員 - コミュニティを作るには？ 6/9

このセッションではヨーロッパの緑の党からの事例紹介の後、参加者同士のディスカッション、話した内容の共有が行われた。事例紹介では、選挙活動の際に支援者をターゲティングすること、接触や交流を何度も繰り返すことが重要であることが共有された。

ディスカッションでは互いの国が抱えるコミュニティを作る難しさや支援者を集める難しさについて議論した。日本から参加した能條さんは自らが運営するNPOと日本におけるジェンダー不平等の問題を共有した上で、女性が安心して活躍できる場の必要性を強調した。デンマークから参加した議員は日本の女性議員の少なさに驚きを隠せないようだった。その後も現状の共有が続いたが、ヨーロッパの緑の党からはコミュニティを作ることはLGBTQの保護にもつながることを指摘。最後には世界で意見交換が容易ではない地域レベルの議員たちのリスト化と、知識共有の場を必要とすることを強調した。

鹿児島県：中村涼夏



グリーンエコノミー 6/10

新自由主義の利益を追い求め続ける経済は、過剰な生産や消費に伴い、環境破壊や自然災害、労働者への搾取など、様々な問題を引き起こしている。

韓国のスピーカー：韓国では、サーキュラーエコノミーの導入が急がれる。高齢化とともに、非正規雇用と経済格差が進んでいる。サーキュラーエコノミーは、資源だけではなく、食料、エネルギー、住宅、輸送などにおいて、会社、市や町村、国や世界経済に適用させる必要がある。

オーストラリアの司会者のまとめ：循環経済にするための4つのポイントは、

①失業者へのサポート、②短時間労働をする週を設定、③消費を減らすこと、④消費意欲をかき立て続ける広告産業への規制

労働者の解放と言う意味で、ベーシックインカム導入が政党同士で話し合われている。韓国では、未だ論争を生んでいる。また、オーストラリアでは、公共投資は、広告を行わない会社に限定される。

静岡県：和高美樹



危機と紛争 6/10

最初はドイツ・ビュティコファー氏が出てきて「ウクライナを支援すべし」という演説を行った。現実的とはいえ、ドイツの緑の党は平和主義勢力ではないのか、と改めて幻滅。ファミリーディナーという全体の集まりの会場でディナーの前という一番人が集まりやすい時間帯に実施されたこの企画。グローバルグリーンズの中でのドイツの影響力が大きいことがわかった。

機材の関係で上映されなかったが、ウクライナ緑の党からのビデオメッセージも予定されていた。

本来ならこういう大きな課題については討論の機会があるべきだと思うが、大きな会場では無理だった。聞けばビュティコファー氏は2001年に日本派遣団が「憲法9条の意義について」発言したら「おとぎ話」として一蹴した人物らしい。ドイツはロシアと陸続きなので警戒するのはわかるが、私に言わせれば「日本がかつて侵略した中国を恐れるのと同じで、昔ナチスがソ連を侵略したからロシアの報復を恐れる」心情ではないか。

北東アジアの危機に関しては、軍事競争の 에스カレートや軍備によって平和を守るという発想の危険性は伝わった。

兵庫県：掘蓮慈





COP、国連と国際的な影響力 6/10

最初は COP の評価から始まった。COP は興味深い場所でありながら、COP27 の Loss and Damage の具体的な資金源が明示されなかったことを批判した。その後は生物多様性条約の COP15 の現地報告、そして GG 世界大会と同時並行で、ドイツにて開催されていた SB58 に関するオンライン報告が行われた。どの会議でも共通していたのは、各々が自分自身の役割を自覚しながら声を上げていることであるということだ。

「人権なくして気候正義は実現しない (Climate Justice without human rights)」の言葉から、気候危機の解決と同時に人権保護の必要性は国際市民の流れであることを再確認できた。また化石燃料企業やロビイストが COP 等の国際会議に参加している一方で、より脆弱な立場に置かれている人ほど参加できていない状況を指摘。Global Greens からは子供を派遣することを支援し、スピーカーとして

招いたこともビデオにて紹介された。Global Young Greens から若者の声を聴く姿勢だけでなく反映させる提案が出されていたように、Global Greens 含め Greens Japan も内部反映できるかの姿勢が問われているのではないだろうか。

鹿児島県：中村涼夏

ファミリーディナー 6/10

お楽しみの夕食会が始まった。友好の為に、日本と台湾は、入り混じって座った。私は 16 才の台湾の女の子の隣。韓国料理 [プルコギ、キンパ、キムチなど]、中華料理、西洋料理。飲み物は、韓国ビールとマッコリ。料理を堪能したところで、舞台上自由に上がって、歌と踊り。日本は浴衣を着て「上を向いて歩こう」を歌った。他の国は、サンバ、フラダンス、K ポップ、ヒップホップ。みんな笑顔。楽しかった。

地域代表協議会議長：伊形順子



浴衣姿で「上を向いて歩こう」を熱唱



草島さんのハーモニカ演奏



台湾緑の党と交流

連携する組織

グローバル・ヤング ・グリーンズ (GYG)



GYG では大会中計 4 回の会合が開催され、参加者たちは最初に議論の概要を共有し、その後のセッションでは規約改定案に集中しました。会合では、色分けされたカードによる投票、地域に応じた座席配置、発言時間のタイマー管理など、参加者が意見を積極的に表明しやすい環境づくりがなされました。

議論の核心は緑の党以外の若者が GYG 運営委員に選ばれる可能性があるという問題で、熱心な討論が行われた末に提案は最終的に否決されました。この一連の民主主義的なプロセスは、参加者間での多様な意見の交流として重要な役割を果たしたと思います。そして GYG の活動における意見の多様性と民主主義の価値を再確認する機会となりました。

ヤンググリーンズジャパン共同代表：野中康生

グローバル・グリーンズ ・ウィメンズ・ネットワーク (GGWN)



女性ネットワークティーパーティー 6/10

最も印象に残っている話として、オーストラリア初の中国系国会議員のジェニイの話を先に記しておく。

「私たちの緑の党でもジェンダー平等など様々な立派なポリシーを掲げてはいるが、結局、足元を見ると、大卒の白人男性が大卒の白人女性に変わっただけで、学歴がない人、英語を話さない人、などまだまだ拾えていない声がたくさんある。オーストラリアの人口比とはかけ離れたものであり、それは、本当の意味でオーストラリアの人々を代弁する環境にはなっていない。

だからこそ、私たちは党内で立派なポリシーを掲げてただけではなくて、掲げていることをリアルな形で党内から実現していく必要がある。白人女性だけが世界を代表しているわけではな

く、社会の姿を反映しているわけでもない。白人男性の代わりは白人女性だけではなく、本来はもっと多様であるべきだ。自分に（白人であることや、高学歴であることなどの）優位性があるのであれば、そうではない他の人に席を譲ろう。」

他には、立候補時や議員活動を行う上でのサポートの重要性（資金力と単純な家事労働のサポートが欲しかったそう）、議員活動をする上で男性と同じくらい尊重されるためには知識をつける必要があるなどの話が其々の経験と共に語られた。

先進的と言われる国、先進的と言われる緑の党の中でも完全な平等は達成できておらず、立派なポリシーに見合う実際の行動の重要性を再確認しあった。

大阪府河南町議：佐々木きえ

閉会式

大会は終わり、それぞれの国で！



閉会式では10人以上の人々が壇上に上がり発言しました。声を紹介します。

「世界中の個人がここ韓国のインチョンに集まることができました。その個人はそれぞれの背景を持っています。互いの話しを聞き、見方を共有しました。ともに共通な解決に向かって、アクションを起こします。私達はグローバルな家族です。」ヤンググリーンから「若年者の人々を支え、彼らの未来の存在の為に活動していきます。」大会の役員から、寺前南さんが「精力的に頑張った」という言葉もいただきました。「韓国の人々の心は温かく食べ物は美味しい。この大会の為に何年も準備をしてくれました。」など韓国への感謝もありました。

「私達の世界を破壊していく人達、その人達も人間です。でも少数です。私達は、多数を代表してグリーンな世界を作っていきます」「大会は終わりますが、それぞれの国に持ち帰ります」。

地域代表協議会議長：伊形順子



閉会式



第5回韓国から次期開催のアメリカブロックへ

仁川大会の到達点と反省点

コロナ禍で延期された今大会だが、それがオンライン参加のあり方を進化させた。前回のリバプール大会でも専用スマホアプリがリリースされたが、今回はスマホやパソコン内であらゆることが完結する国際会議用プラットフォームアプリを導入したことで、現地参加できなかった各国のメンバーも含め、参加意欲が高まり、縦横無尽につながりを広げることができたことは大いに評価できる。

ただ、現代に最後まで残った冷戦構造下にある韓国／東アジアでの大会開催意義に言及がなかったのは残念だった。奴隷積出港であったダカール（2012年）から奴隷商人の街であったリバプール（2017年）へと第3回、第4回大会の開催地が巡っていたことを考えると、「なぜ仁川なのか」が訴えられなかった手薄感は否めない。背景として、大会ホスト連盟であるAPGFはオーストラリアに過度に依存しており、かつアジア太平洋は「共有概念が少ない地域」だという要因もあるだろう。その一員である日本も無関係ではない。

また、運営にも難があった。大会の軸となるのは「宣言」と呼ばれる統一文書と各国から提出される提案の決議だが、その双方において、提案から議論、決議に至るプロセスに各国代表の参加が担保されなかったり、知らぬ間に整理されていたり決められていたりする事案が多発した。

次回は地域的連帯感が強い米州での開催。今回の反省を活かし、より進化したグリーンズの集まりとなるよう期待したい。

国際部：足立力也

GG 世界大会で学んだこと

今回、若者助成制度を設け参加者を募りました。 若者からの報告



今井絵里菜 緑の党は希望の光となるか?という問いを持ち現地2日間の参加。様々な地域から人が集まる組織だからこそ、対立構造が生まれる問題(ウクライナ侵攻、気候危機の背景にある不正義など)にじっくり向き合う時間があれば尚良かった。自国の利益を優先する利己的な姿勢を批判し、あるべき国際協調の形を提案していく役割に期待したい。



今岡明日美 私は、今回、Global Greens Congress Korea2023で、福島のことや、気候変動とメンタルヘルスの関係、女性リーダーの活躍等、環境問題およびその解決に向けた取り組みについて新たな知識を得ることができた。本イベントに参加し、今後も、自分にできることを少しずつ行い、世界中の仲間と共に、より良い世界を作っていきたいと改めて実感することができた。



岡ちひろ 世界を動かすことは、不可能なものでも、ほど遠いものでもなくて、準備や積み重ね、さらには人間の力によって可能になります。今回初めての大大会参加でしたが、こう確信しました。大会で採択される決議案を、一語一語こだわってイメージを共有する会場では、ものすごいエネルギーの飛び交いを体感できました。



坂口潤志 グローバル・グリーンズ世界大会に初参加しました。グローバル・グリーンズ世界大会では、グローバル・グリーンズの民主主義に関心を持ち、また初参加ながらワールドカフェの準備に関わり、様々な国やバックグラウンドの方が来られ、完璧な英語を話すことができない中、どのようにワールドカフェの内容を伝えるか、とても学びになりました。



佐々木初花 「グリーン化する産業」をはじめ様々な分科会で多くの知らない世界に触れ、元々興味があった分野についてもより詳しく知ることができました。また若者主導で世界規模の力強い運動や民主主義的な決定法を現実に目の当たりにすることができ、大きく感銘を受けました。この経験を今後の政治・社会生活に活かしていきたいと思います。



鈴木悠介 今回のGGは私にとって、初のイベント参加、初の海外、と初めてだらけだったので、いまは無事終わられてホッとしています。今年3月からNewsPicksで配信されているChronicleという気候変動ビジネスを追うポッドキャストを面白く聞いています。政治や市民活動といった分野でのグリーンな取り組みにはキャッチアップできていませんでした。そんな私にとって今回、緑の党やGGと出会えたことは新たな世界への扉を開いたようでとてもワクワクしています。



芹ヶ野瑠奈 今回の GG 大会で私は「どうすれば気候正義を守りながら 1.5 度目標を達成できるようなトランジションを緑の党が成し遂げられるのか?それは政権を取ることによって実現するのか?」という問いを持ち、その答えを模索しました。そしてトップダウンもボトムアップも両方必要なのではないかという結論に至りました。



能條桃子 日本はジェンダー平等の後進国だと実感しました。また、女性政治家の数を増やす際に、"Gender Justice" の観点があるかどうか、より重要であるとも思いました。一部の女性が男性と同じようにこなせるのではなく、脆弱な立場にいる人の権利向上に寄与するのかどうか、そのレンズを持ちたいです。



野中康生 初の参加となる Global Greens の世界大会は、ヤンググリーンズジャパン共同代表としての立場で参加しました。大会終了後、ヤンググリーンズジャパンを知った海外のメンバーとの交流が続いたり、多くの問い合わせをいただくようになったことが今回参加した最大の成果だと感じています。



フंक・カトリン・マリア 韓国の GG 大会に参加できたことは、気候変動活動家としてとても貴重な経験でした。世界中で起きているさまざまな問題について学び、全大陸からの参加者と有意義なつながりを持つことができました。今後もこのネットワークと連絡を取り合いたいと思っています。この貴重な機会を与您いただき、ありがとうございました。



韓国緑の党と交流



キルギスタン緑の党と交流

グローバル・グリーンズ大会の役割

1. 世界レベルの決め事を行なう
キャンベラ大会 (2001) で決定された「GG 憲章」が代表例。環境問題や暴走する金融など世界レベルの重要課題に各国が協力して行動するという事は「緑の党」らしい活動といえます。
2. 先進事例の報告などによる情報の共有と議論
ドイツ緑の党のような経験豊富な党から、環境運動的な団体まで、幅広いメンバーが集まります。知見を深める機会となる分科会が典型例です。
3. 顔をあわせての交流
共通の価値観をもち、幅広い年齢とさまざまな背景を持ったメンバーが顔を合わせて交流し、議論するのは楽しく、また有意義です。

GG 大会にオンラインで参加して

会場参加とオンライン参加によるデュアル開催は GG 大会初の試みでした。自分が興味のあるセッションを選び、世界の緑の仲間の発表や議論を自宅に居ながらにして見られることは画期的でした。

会場参加の場合、突っ込んだ議論や食事や休憩中の会話から貴重な学びや繋がりを得ることができ、自分も頑張ろう！とエンパワーされます。オンラインではそのような交流はできませんが、会議システムには文字による対話機能があり、かなり突っ込んだやりとりも可能でした。会場でもオンラインでも語学の壁はありますが、オンラインだと自動翻訳を使って意思疎通できるという利点もあります。

今回のデュアル開催によって、GG の新たなエンパワーメントの形を垣間見ることができました。

事務局：松本なみほ

本当は現地で参加したかったのですが、オンラインからも大会の雰囲気を感じることができました。今回使用された Whova というアプリは、Zoom と SNS がミックスしたようなアプリで、国際会議や学会などでも使われているそうです。英語表示しかないものの、普段から Zoom や SNS を使っている人にとっては使いやすかったと思います。

Whova 上のチャットでは大会前から議論が始まっており、大会中も会場での議論と並行して盛り上がっていました。このことによって決議案の文言修正をめぐって一部混乱もあったと聞いていますが、今後の修正ルールの改善を期待します。

事務局：本河知明



現地大会会場のランチメニューはヴィーガンかベジタリアンから選択できる。

日本派遣団メンバー



資料：4日間の企画

6/8 (木) 大会初日

受付 / アメリカ大陸からの代表者の会合 / APGF フォーラム (加盟国の紹介) / 開会式 / GG 決議案の紹介 / 各連盟からの紹介 / ネットワークと出展者を紹介 / アフリカ連盟のミーティング / ヨーロッパ連盟のミーティング / 日本自主企画「太陽の蓋」上映会

6/9 (金)

力を合わせ、協働して変革に挑む (寺前登壇) / キャンペーン戦略 / GYG 行動主義とエンパワメント / 脱成長と緑の政治 / ファンドレイジング / 陸上における生物多様性 / ワールドカフェ - 世界中のグリーンズと語り合おう (日本提案「汚染水」と「生物回廊」の2つ参加) / 韓国宣言 / 地中海の公正な移行 / 持続可能性への移行 / グリーン人工知能 / 決議案修正 / グリーンでいよう / 地方議員 - コミュニティを作るには? / 変化のために団結する: 人権侵害に対して具体的な成果を達成することの重要性 / 地方議員 - 都市における生物多様性 / 地中海の対話と協力 / GYG 総会 / LGBTQIA + 権利 / 民主主義 - 権力と草の根民主主義 / エコサイド: 持続可能な世界のための法的枠組み / エネルギーの移行 / 環境主義の脱植民地化 / GG 戦略 / デジタル戦略 / 政治的成熟のはしご - ブロックごとに政党構造を構築する / アジア太平洋地域の緑の党を研究する (足立登壇) / APGF 女性ネットワークの集まり / 世界各地の危機と紛争 / ファミリーディナー

6/10 (土)

地域と国の政府におけるグリーンズ / GG の課題に関する国際先住民族の対話と国際先住民族ネットワーク設立 / 連盟メンバーのための研修 / 憲章の改正 / グリーンズの強化 - 民主主義と選挙プロセス / グリーン化する産業 / 連盟職員向けトレーニング / フォトアクション / 韓国緑の党会議 / GYG 総会 / グリーン経済 / アジア太平洋のジェンダージャスティス / 日本提案企画「核は答えにならない」 / 民主主義を守る - ヨーロッパの視点 / 気候変動による移動と移住 / 決議事項の修正 / COP、国連と国際的な影響力 / GG ネットワークとワーキンググループの会合

6/11 (日)

大会最終日。決議案などの投票セッション / グローバルユースの視点とメンタルヘルス / 積極的行動主義と抗議 / GYG 総会 / 生物多様性と水 / 韓国宣言 / 閉会式



日本派遣団メンバー

<現地参加者> 計36人

共同派遣団長 ○尾形慶子、○高橋裕也

○足立力也, 伊形順子, ○井奥雅樹, 草島進一, 久保あつこ, ○熊野里砂, 黒岩佐和子, 児玉敏郎
佐々木希絵, 上瀬豊, 関根マイク (通訳), 曾我逸郎, ○高見沢重公, ○手塚太郎, ○寺前南
堀蓮慈, 丸尾まき, 宮部彰, ○八木聡, 山崎憲成, ○渡辺さと子, 和高美樹

若者助成対象 12人

今井絵里菜, 今岡明日美, 岡ちひろ, 坂口潤志, 佐々木初花, 佐々木稜仁, 鈴木悠介
芹ヶ野瑠奈, 中村涼夏, 能條桃子, 野中康生, フンク・カトリン・マリア

<通訳>

熊野里砂 (現地), 関根マイク (現地), 上妻つぐみ (自宅), 満元証 (自宅)

<日本でのオンライン担当>

○松本なみほ, ○本河知明

<GG 報告集 編集担当>

○八木聡

○は事務局



もくじ

共同団長あいさつ・大会概要	2・3
GGの歩み	4・5
開会式	6
日本派遣団の成果	7～9
分科会報告	10～13
連携する組織	14
閉会式	15
GG世界大会で学んだこと・大会の役割	16・17
オンラインで参加して	18
資料	19



地球ひとつで生きる

緑の党
グリーンズジャパン

発行・編集：緑の党グリーンズジャパン GG 日本派遣団

発行年月：2024年3月 本体価格：500円

〒165-0026 東京都中野区新井 2-7-10 サンファスト 301

TEL：03-5364-9010 FAX：03-3389-0636

E-mail:greens@greens.gr.jp

